

「貼り雑ぜ（新）」画像ファイルの準備について（ver.11.3.0以降）

各ユーザー毎に画像ファイルを保存するためのフォルダがMacでもWindowsでも多分「ピクチャ」と言う名前で存在しているので、その中に「貼り雑ぜ用」という名前でフォルダを作り、その中に適当な名前でデータ用のフォルダを作ります。

このデータ用のフォルダ名が設定で一覧表示されて、そこでフォルダを選ぶとその中のファイルが表示されます。

データ用のフォルダ内には9階層までサブフォルダを作る事が可能です。

表示をファイル名順にした場合は単独ファイルが優先で、その後サブフォルダ毎のファイル名順（技術的にはローカライズ無しのフルパス名順）の表示になります。

「貼り雑ぜ用」フォルダは、アプリケーションを起動した時に存在していない場合には自動的に空のフォルダが作られます。

「貼り雑ぜ用」フォルダを作る場所に自信が無ければ、一旦アプリケーションを起動して（表示する物が無くて「？」が表示されますが）自動作成されたフォルダを利用すれば良いでしょう。

データ用フォルダ内に置く画像ファイルは JPEG（拡張子は“jpg”か“jpeg”）又は PNG（拡張子は“png”）にします。それ以外のファイルは無視します。

画像のサイズは32×32以上にしてください。画像が大きすぎて画面に収まらない時は適当に縮小しますが、それ以外はリサイズやトリミングをしないので、事前に適切なサイズのファイルに加工して準備してください。

画面内に複数の絵を撒き散らす形になるので、個々の絵のサイズがあまり大きいと効果が薄れます。使用するモニタサイズなどを考えてファイルを準備してください。大体、画面サイズの3分の1程度が適当だと思います。

データ用フォルダ内に“Config.txt”というテキストファイルを置くと、そのフォルダを選んだ際に「貼り雑ぜ」の動作を強制的に変更します。ファイルの形式は以下の通りです。

ファイル名“Config.txt”で2文字のみのプレーンテキストファイル。

（空白や改行も入れないでください）

1文字目：表示順（r,s,t,それ以外は不変）

r → ランダム、最初の7枚は0.5秒間隔

s → ファイル名順、最初の7枚は0.5秒間隔

t → ファイル名順、最初から設定の表示間隔

2文字目：表示間隔（1,2,3,4,5,6,7,それ以外は不変）

1～7が各5,10,20,30,45,60,90秒に対応

データ用フォルダは「貼り雑ぜ用」フォルダ内に置くのが基本ですが、外部に置く事も可能です。アプリケーション内のフォルダ選択の横に有る「+」ボタンを押して現れるダイアログでフォルダを選択し、一旦アプリケーションを終了して再起動すると追加したフォルダがメニューに追加されます。少々操作が分かり難いかもしれませんが、破壊的な結果は起きないので色々試してみてください。

追加したフォルダの情報は「貼り雑ぜ用」フォルダ内にテキストファイルとして保存されるので、誤って追加したり不要になった物は削除して下さい。このファイルを直接編集しても構いません。ファイルの形式は以下の通りです。

UTF-8のプレーンテキストファイルで拡張子は"txt"。ファイル名は任意。

- 1 行目：常に"ExternalLink"。
- 2 行目：登録したフォルダのフルパス名。
- 3 行目：メニューに表示する名称。（省略可）
- 4 行目以降は無視。

2024.5.21 竹内 (Macの変人) 喜代志